

<研究ノート>

日本語との対照から見た中国語のアスペクト

三宅 登之

中国語は文法形式としての時制が存在しない一方で、アスペクトに関しては非常に豊富な表現形式を持っていると言われる。アスペクトを表す言語形式の代表例は、助詞の中の一類でアスペクト助詞(“动态助词”)と呼ばれる品詞で、動作の実現・完了を表す“了”, 状態の持続を表す“着”, 経験を表す“过”がそのメンバーである。その他にも、方向補語という文法成分の中に、本来の動作の方向を表す意味から文法化が進んだ結果、様々な抽象的な意味を表し、アスペクトを示す役割を担うものもある。また、語気助詞“了”や“呢”なども、本来の品詞の名称から想定されるモダリティの役割だけでなく、アスペクトの体系にも密接に関連している場合がある。

以下、様々なアスペクトの局面を表す日本語の、中国語との対応を述べることを通じて、中国語のアスペクトの様相を概観する。¹ なお【】は、日本語の表現の番号を表し、()は、中国語の用例の通し番号を表す。

【1】 ~さん(固有名詞)は/あの人は もう来た。

(1) 小 王 已 经 来 了。

Xiǎo Wáng yǐjīng lái le.

(王さんはもう来た。)

【2】 ~さん(固有名詞)は/あの人は もう来ている。

(2) 小 王 已 经 来 了。

Xiǎo Wáng yǐjīng lái le.

(王さんはもう来ている。)(中国語は(1)と同じ。)

日本語の「夕」に該当することが多いことから、完了を表すと漠然と言及されることもある中国語の“了”であるが、現代中国語には2つの“了”がある。

¹ 中国語については、東京外国語大学大学院博士後期課程の李軼倫氏(北京出身, 30代男性)にインフォーマントとして適切性をチェックしていただいた。

1つはアスペクト助詞（“动态助词”）の“了”で、動作行為の実現・完了を表す。² もう1つは語気助詞（语气助词）の“了”で、新しい事態の発生や変化を表す。以下、必要な場合は、アスペクト助詞の“了”を“了₁”，語気助詞の“了”を“了₂”と記して区別する。

紙幅の関係でここでは議論の詳細に立ち入ることはできないが、³ 両者は使い分けはあるものの、一部の動詞述語文ではそれらの表す文法的意味が極めて接近し、使い分けの基準が不明確になることがあり、さらに文中の“了”が“了₁”なのか“了₂”なのか判断に迷う場合さえある。基本的には両者は、文中で生起する統語的位置に基づいて区別できる。“了₁”は、動詞（一部形容詞も含む）や動補フレーズなど、動詞句の直後に生起する。一方“了₂”は必ず文末（複文中の節の末尾も含む）で用いられる。ただし少し考えればわかるように、この2つの統語的位置は排他的なものではない。(1)や(2)のケースがそうである。これらの用例の“了”は、動詞“来”（来る）に後接しているので“了₁”であると同時に、それが文末に配置されているので“了₂”でもある。このような場合理論的には、次のように文末に2つの“了”が同時に生起していると考える。

(3) 小王已经来了₁了₂。

そして、現代中国語の共通語“普通话”では、“了₁”と“了₂”の音声も文字表記も全く同一であるため、実際には(3)のような発話は存在せず、1つの“了”で“了₁”と“了₂”の2つの働きを兼ねさせるという措置が講じられる。つまり、

(4) 小王已经来了₁₊₂。

と考えるわけである。この場合、“了₁”を用いた表現と“了₂”を用いた表現が、結果的には同じことを表していることになるような動詞述語文であることが条件である。動詞“来”（来る）を使った“来了”について言えば、まず“了₁”によって「来る」という動作が実現済みであることが述べられ、次に文末に“了₂”が置かれることによって、王さんがまだ来ていなかった状態から、王さんがやってきた状態という、新しい状態へ変化したということが表されている。いわば事態をどの角度から言語化するかという切

² 実はアスペクト助詞“了”の文法的意味については、「実現説」と「完了説」で意見の対立があるのだが、ここではこれ以上議論に踏み込まない。「実現説」は刘勳宁 1988 を、「完了説」は木村 1997 を参照。

³ 詳細な議論は三宅 2010 を参照。

り口の違いであって、結局述べている文の客観的意味はほぼ同じことになる。いずれの切り口からの表現であろうと、“来了”は「来る」という動作が実現したこと、来ていなかった状態から来た状態へ変化したことを述べるにとどまるので、【1】のように過去のある時点のことについても用いられるし、【2】のように動作が実現後、その状態が結果として現在まで持続している場合であっても用いることが可能であり、中国語では(1)と(2)の間に形式上の相違点は存在しない。

【3】 ~さん（固有名詞）は／あの人は まだ来ていない。

(5) 小 王 还 没 来。

Xiǎo Wáng hái méi lái.

（王さんはまだ来ていない。）

(5)は(1)や(2)に対する否定形式である。“了”によって表される動作の実現や状態の変化を否定し、動作が実現していないことや、新たな状態が発生していないことを表すには、否定副詞“没”（または“没有”）が動詞句に対する連用修飾語となり、“了”は“了₁”と“了₂”のいずれの場合も、“没”（または“没有”）の生起によって消去される。

【4】 ~さん（固有名詞）は／あの人は まだ来ない。

(6) 小 王 还 不 来。

Xiǎo Wáng hái bù lái.

（王さんはまだ来ない。）

【4】の形の中国語訳としては一応(6)が挙げられるが、実はこの場合は、(5)の“小王还没来。”を用いても、結果的には同じ事態を述べていることになる。(5)のような“还没来”を用いた表現の場合は、“了”によって表される動作の実現や状態の変化を客観的に否定していることになり、一方(6)のような“不来”を用いた場合は「来よう」とする王さんの意志を否定しており、動作主の意思自体を否定している以上、客観的にはもちろんその動作は実現されていないということになる。

なお、インフォーマントによると、“还不来”の形は例えば次のような例の形でよく用いられるという。

(7) A: 小 王 怎 么 还 不 来? 会 不 会 出 什 么 事 了?

Xiǎo Wáng zěnmě hái bù lái? Huì bu huì chū shénme shì le?

(王さんはなんでまだ来ないんだろう。何かあったのかな。)

B: 给 他 家 里 打 个 电 话 问 问 吧。

Gěi tā jiā li dǎ ge diànhuà wènwen ba.

(彼の家に電話をかけてちょっと聞いてみよう。)

(7)では本来来ているはずの王さんが来ていないので、話者のどうしてなのかと訝る気持ちが含まれており、客観的な否定“没来”ではなく、“不来”が用いられている。

【5】 ~さん（固有名詞）は／あの方は もう（すぐ）来る。

(8) 小 王 快 要 来 了。

Xiǎo Wáng kuàiyào lái le.

(王さんはもうすぐ来る。)

「もうすぐ～する」という表現は、中国語の教学上は「近接未来の表現」として、一つの枠が提示されることが多い。(8)で用いられた“快要～了”がその代表例である。“快要”は「もうすぐ、じきに」という意味を表す副詞である。“了”は語気助詞“了₂”である。

この枠における“了”は、前述してきた“了₂”と何ら機能上変わるところはなく、新たな状況が発生したこと、新たな状況に変化したことを表す。本来已然義であるはずの“了”が、未来の未然の状況にも用いられるとしてこの枠を捉えるのは正確ではない。例えば(8)の“快要来了”の部分で言えば、その構造は“快要／来了”ではなく“快要来／了”と分析すべきものであり、少し以前だったら王さんがもうすぐ来るという状況ではなかったのが、時間が近づいてきて、“快要来”（もうすぐ来る）という状況・モードに“了”「なった・既になっている」と述べているわけである。

【6】（あっ、）～さんが来た。

(9) 小 王 来 了。

Xiǎo Wáng lái le.

(王さんが来た。)

王さんが話し手の方に向いやって来るのに気づいた場面での発話である。王さんが

来るといふ出来事が発話時以前に起きた場合も発話時点で起きた場合も、言語形式上区別はなく、いずれも(9)の形になる。

このような文においては“了₂”の役割が重要になる。このような“了₂”の働きは、話者が眼前の新たな事態（王さんがこちらに来つつある事態）に気づき、自身の頭の中の認識を書き換えたと考えることもできる。このような用法に基づき“了₂”の文法的意味を「話し手の認知環境の更新」（杉村 2006）とする考え方は、一定の説得力を持つ。例えば、現象が発生したことを述べる「存現文」（10）は

(10) 下雨了。

Xià yǔ le.

（雨だ。／雨が降ってきた。）

2つの意味を持つ。1つは、例えば外の景色を見ていたら、曇っていた天候であったのが徐々に眼前でちょうど雨が降り始めたという場合である。この場合は、曇りから雨へという客観的事実の状況が、旧状況（曇り）から新状況（雨）へ変化したということを表す。もう1つは、例えば外では先ほどからずっと雨は降り続けているのだが、話者が作業か何かに没頭していて、しばらく前に雨が降り始めたのには気づかず、ふと顔を上げて窓の外を見て、初めて外で既に雨が降っていることに気づいた際の「（あっ）雨だ。」という場合である。この後者のケースの場合は、話者は外の客観的な状況の変化を“了₂”でマーキングしたのではなく、「雨が降っているとは思っていなかった」話者の頭の中の知識が、雨に気づいたことによって、「雨が降っている」という新たな知識によって更新されたことを表す。

ただ、このような“了₂”の使い方はどのような動詞句にも適用可能なわけではない。上記の話者が雨に気づいた場合は可能であったが、同様に例えば部屋に王さんが少し以前にやってきてずっと座ってその部屋の中にいる（“在”）のであるが、話者が手元の作業に没頭しておりしばらく気づかず、ふと顔を上げた際に、王さんがずっと部屋にいることに気づいた場合でも、

(11)* 小王在了。

Xiǎo Wáng zài le.

という言い方はできない。これは“在”が状態動詞であるというアスペクト的性質が原因になっていると思われる。

【7】 おととい、～さんが来たよ。

(12) 前天 小王 来了。

Qiántiān Xiǎo Wáng lái le.

(おととい王さんが来たよ。)

(9)と(12)は、主述フレーズ“小王来了”の部分は全く共通で、形式上の唯一の相違点は(12)において“前天”（おととい）という過去を表す時間名詞が生起していることである。つまり中国語においては、“小王来了”はその中の“了₂”によるマーキング（厳密にはこの場合は“了₁₊₂”）によって、「王さんがまだ来ていなかった状況」から「王さんが来終わった/来た状況」に変化したと述べるに過ぎず、言語形式としての時制の存在しない中国語においては、その新事態の発生・変化を表す言語素材“小王来了”が、発話時のコンテキストや文脈によって、具体的な時間軸上に降りてきて特定の時点での表現として使われるのである。それが発話時現在のこととして用いられたのが(9)であり、「おととい」という過去の時点で発生したのだということを時間名詞でマーキングされ、時間軸上の過去の時点に配置されたのが(12)である。

【8】 おととい、～さんは来なかったよ。

(13) 前天 小王 没来。

Qiántiān Xiǎo Wáng méi lái.

(おととい王さんは来なかったよ。)

(13)は(12)の否定形の表現として位置づけられる。肯定形(12)から否定形(13)が生成される過程は極めて単純で、(12)で“了”が用いられているため“了”の否定形としてまず否定副詞“没”（または“没有”）が連用修飾語として動詞句の前に生起し、その“没”によって“了”は削除される。

この否定形の作り方は、(5)と共通している。(5)再録)

(5) 小王 还没来。

Xiǎo Wáng hái méi lái.

(王さんはまだ来ていない。)

いずれの否定形であろうと、肯定形として“来了”（来た）という形が想定されてい

て、否定副詞“没”で修飾され“了”が削除された点で何ら変わる点はない。否定形は日本語では(5)と(13)の対比でわかるように、2つに分かれる。

肯定形	⇔	否定形
“来了”来た		“没来” ①来なかった (→(13)) ② (まだ) 来ていない (→(5))

中国語の“没来”は、結局「来る」という動作が実現していないと述べているだけなので、日本語の の意味も の意味も両方表しうる（その両方の意味で言語形式上に区別がない）ということである。

【9】 (私は) あのリンゴをもう食べた。

(14) 我 已经 把 那个 苹果 吃了。

Wǒ yǐjīng bǎ nèige píngguǒ chī le.

(私はあのリンゴをもう食べた.)

(15) 那个 苹果 我 已经 吃 了。

Nèige píngguǒ wǒ yǐjīng chī le.

(あのリンゴは私はもう食べた.)

(16) 我 已经 吃了 那个 苹果。

Wǒ yǐjīng chīle nèige píngguǒ.

(私はあのリンゴをもう食べた.)

さて、“我(S)吃(V)苹果(O)。”(私はリンゴを食べる)という他動詞が目的語を伴う動詞述語文の基本語順から考えると、【9】の中国語訳としてすぐに想起されるのは(16)であるが、インフォーマントによると実際には(16)は安定性に欠け、同内容は(14)や(15)のように言うのが普通であるという。

先行研究にも、このような現象についてのコメントが見られる。丁崇明 2009:232 では、“把”構文の用例(17)を挙げた後、

(17) 小 王 把 我 的 电 脑 搞 坏 了。

Xiǎo Wáng bǎ wǒ de diànnǎo gǎohuài le.

(王さんは私のパソコンを壊した.)

この文は一般の動詞述語文“小王搞坏了我的电脑”とも言えるが、多くの中国人は“把”構文の方を選んで用いるだろうと述べている。

なぜこのような場合(16)よりも(14)や(15)がより多く用いられるのかについてだが、「あのリンゴ」が特定の物であり、情報構造の観点から言えば既知で特定の物は旧情報として文の前方に置かれ、その特定のリンゴに対して「食べた」という処置を行ったという点に表現の主眼があるので、(14)のようなや“把”構文や、(15)のような主題文が多く選択される傾向があるのではないかと思われる。

さて、これらの文の“了”について確認してみよう。(16)の“了”はもちろん“了₁”である。(14)や(15)の“了”は、動詞の直後であると同時に文末に位置しているので、1つの“了”で2つの“了”を兼ねさせている“了₁₊₂”である。いずれの場合も、“了₁”は関わっているわけであるが、これらの用例の動詞は“吃”なのでそれが伴う“了₁”は一般の“了₁”とは若干性質が異なる。呂叔湘主編 1999:352によると、ある類の動詞⁴の後にある“了₁”は動詞にある結果が生じたことを表し、結果補語の“掉”と似た働きを有しているという。ここでは紙幅の関係でこのような“了₁”の性質について議論を進めることはできないが、このような“了₁”の性質も(16)より(14)や(15)が選択される要因の1つになっているのではないかと思われる。

【10】 私はあのリンゴをまだ 食べていない／食べない。

(18) 我 还 没 吃 那 个 苹 果。

Wǒ hái méi chī nèige píngguǒ.

(私はあのリンゴをまだ食べていない.)

(18)であるが、対応する肯定形が“了”を用いた文なので否定副詞“没”(または“没有”)で連用修飾し、その結果“了”が削除されたものである。このような、“了”によって表されている実現相の否定形生成のメカニズムは、自動詞文でも他動詞文でも異なるところはない。なお、肯定形の場合は(16)のような「主語+動詞+目的語」の語順はや

⁴ 刘月华等 2001:366 では、このような動詞の類をまさに“吃”で代表させて““吃”类动词”と称している。

や安定度が落ちたが、(18)のような否定形ではそのような現象は起こらないようである。

(19)? 我 还 不 吃 那 个 苹 果。

Wǒ hái bù chī nèige píngguǒ.

(私はあのリンゴをまだ食べない。)

(19)は、「まだ食べない」という日本語に対する機械的な直訳である。(18)のような“了”によって表されていた実現相の否定であれば、否定副詞は“没”(または“没有”)が選択され、“了”は削除される。一方、「食べない」という、未然の事態に対する、自らの行為を行わないという意志を含んだ否定表現であれば、否定副詞は“不”を用いる。(19)はそのようにして生成された。

インフォーマントによると、(19)は文法的には全く問題ないのであるが、実際にどのような場面でこのような発話がなされるのか、その自然なコンテキストを設定するのが極めて困難であるという。もしも例えば「今はまだ(お腹が空いていないので)リンゴを食べたくない(、もうしばらくしてから後で食べる)」のような場面ならば、

(20) 我 现 在 还 不 想 吃 苹 果。

Wǒ xiànzài hái bù xiǎng chī píngguǒ.

(私は今はまだリンゴを食べたくない。)

のように、願望を表す助動詞“想”などを加えた表現を用いるべきであるという。

【11】 あの人は今(ちょうど)そのリンゴを食べています/食べているところです。

(21) 他 现 在 正 在 吃 那 个 苹 果 呢。

Tā xiànzài zhèngzài chī nèige píngguǒ ne.

(彼は今そのリンゴを食べています/食べているところです。)

中国語では動作行為が進行していることを表す際には、時間副詞“在”“正在”“正”などを動詞の前に置く。文末には語気助詞“呢”がともに用いられることも多い。言語形式としての時制のない中国語では、“在”“正在”“正”によって表されるのは進行相というアスペクトであり、時制ではない。(21)がたまたま現在の進行について述べる現在進行になっているのは、“现在”(今、現在)という時間を表す名詞が文中に生起して

いるからに過ぎない。

この3つの時間副詞が、意味も用法も全く同じというわけでは決してない。これらのうち、“正”はもともと「ちょうど」という2つの事態が時間的に重なったという偶然性を表す意味があり、進行を表す時間副詞として用いられる際にも、主にそのようなニュアンスにおいて用いられる。⁵

(22) 大家 正 谈论着，他 进来了。

Dàjiā zhèng tánlùn zhe, tā jìnlái le.

(皆がちょうど議論していると、彼が入ってきた.)

統語的には、“正”はその後に単独の動詞のみを接続させても文は成立せず、“正～着／呢／着呢”のように、アスペクト助詞“着”や語気助詞“呢”を同時に用いなければならないなど、制約が多い。⁶

(23) 我 正 听着 呢。

Wǒ zhèng tīngzhe ne.

(私は聞いていますよ.)

(24)* 那 部 电视剧 我们 正 看。

Nà bù diànshìjù wǒmen zhèng kàn.

(あのテレビドラマは私たちはちょうど見えています.)

【12】 窓が開いている。／窓が開いていた。

(25) 窗 户 开 着 呢。

Chuānghu kāizhe ne.

(窓が開いている.)

中国語では状態の持続はアスペクト助詞“着”を用いて表す。この場合の「状態」とは、動詞そのものが静的な状態で持続している場合も、また動作が終了した後の結果状態が持続している場合も含む。(26)の“拿着”(持っている)が前者の例であり、(27)

⁵ 李晓琪 2005:14-15. (22)も同箇所より。3者の相違点については、郭志良 1991, 1992 も参照。

⁶ 卢福波編著 2000:664-665. (23)(24)も同箇所より。

の“挂着”（掛かっている）が後者の例であると言える。⁷

(26) 手 上 拿着 一本 汉语 词典。

Shǒu shàng nǎzhe yì běn Hànyǔ cídiǎn.

（手に中国語辞典を1冊持っている。）

(27) 墙 上 挂着 一幅 水墨画。

Qiáng shàng guāzhe yì fú shuǐmòhuà.

（壁に水墨画が1枚掛かっている。）

【11】と【12】の中国語訳からわかるように、中国語では進行相と持続相がそれぞれ異なった形式で言語化され、以下のような対比を成している。

動作の進行	⇔	状態の持続
//		//
“在”（副詞）＋動詞		動詞＋“着”（アスペクト助詞）

ところが、アスペクト助詞“着”が進行相を表すことができるとの記述がされている先行研究等も少なくない。呂叔湘主編 1999:665-666 では、アスペクト助詞“着”の中に“表示动作正在进行”（動作が進行していることを表す）という意味項目を立て、

(28) 雪 正 下着 呢。

Xuě zhèng xiàzhe ne.

（今雪がちょうど降っています。）

(29) 一 场 热 烈 的 讨 论 正 在 进 行 着。

Yì chǎng rèliè de tāolùn zhèngzài jìnxíngzhe.

（白熱した討論が今行われているところだ。）

のような用例が挙げられている。しかし、三宅 2007 で詳細に分析したように、実際にはこれらの例はアスペクト助詞“着”ではなく副詞“正”“正在”や、語気助詞“呢”の支えで

⁷ (26)(27)は呂叔湘主編 1999:666 より。

文が成立している。これらの他の要素を一切排除して、アスペクト助詞“着”のみを動詞に後接させ、動態義を表そうとすると、文がそこで言い切りにならず成立しないことが多い。例えば、

(30) a.?他们开着会。(彼らは会議中だ.)

b. 他们开着会, 外头下起雪来了。(彼らが会議をしている時, 外で雪が降りだした.)

のように、後に他の成分が後続して初めて文が成立する。また、“走着”(歩いている)“吃着”(食べている)等の、「動詞+“着”」で動作の進行を表している例も皆無ではないのだが、静態義の「動詞+“着”」に比べるとこのような動態義の「動詞+“着”」は圧倒的に使用頻度が低く、用いられているとしても、ディスコースの中で全体の背景となる情報を述べる役割しか担わない点がコーパスの調査などで明らかになっている。⁸

よって、アスペクト助詞“着”で表されるのは「持続相」であるという認識が重要である。

【13】 私は毎朝新聞を読む／読んでいます。

(31) 我 每天 早上 看 报纸。

Wǒ měitiān zǎoshang kàn bàozhǐ.

(私は毎朝新聞を読む。／読んでいます。)

(31)のように、習慣などの恒常的な事態を述べる際には、中国語では特にアスペクト助詞や副詞等のマーキングをせず、動詞をそのままの形で用いて表す。たとえ日本語で「テイル」形になっていても同様である。

【14】 あなたは(あなたの)お母さんに似ている。

(32) 你 很 像 你 妈妈。

Nǐ hěn xiàng nǐ māma.

(あなたは(あなたの)お母さんに似ている。)

⁸ 議論の詳細は三宅 2007 を参照。また、“着”の全体像については刘一之 2001 も参照。

状態の持続でも、そもそも動詞自体が動きのある動作行為ではなく、一種の状態を表す場合には、中国語ではやはりAspect助詞や副詞等のマーキングをせず、動詞をそのままの形で用いて表す。“像”（似ている）の他にも、“有”（ある）⁹、“属于”（～に属している），“等于”（～と同じである），“包括”（含む）などや、さらには“认为”（～と考えている），“希望”（希望している）などの心理活動動詞もこの類に含まれる。

【15】 私はその頃毎日学校へ通っていた。

(33) 那个 时候 我 每天 都 去 学校。

Nèige shíhòu wǒ měitiān dōu qù xuéxiào.

（私はその頃毎日学校へ通っていた。）

【15】はいわば【13】のような恒常的事態が、現在ではなく過去において起こっていた場合ということである。英語ではそのような場合“used to”のような形式を用いるのかもしれないが、言語形式としての時制のない中国語においては、何のマーキングもされないのは、【13】のケースと同様である。(33)では“那个时候”（その頃）という過去を表す語句によって、それが過去のことを述べている文だということが明示されている。

【16】 私は～に（大きな街の名前など）行ったことがある。

(34) 我 去过 北京。

Wǒ qùguo Běijīng.

（私は北京に行ったことがある。）

中国語では「～したことがある」という経験相は、“过”というAspect助詞を動詞の直後に置くことによって表される。¹⁰ これらは否定形を作る場合、否定副詞が“不”ではなく“没”または“没有”を用いるという点で共通している。ただし、“了”は“没”によって削除されるが、“过”は“没”の連用修飾を受けても削除されずに残るという違いはある。

⁹ “有着”という言い方もあるが、書面語に限られる。

¹⁰ 経験を表す“过”とともに、動作の終結を表す“过”もあり、こちらもAspect助詞の中に入る立場もある。ただし両者は意味・用法に相違点が存在する。三宅 1999a, 1999b を参照。

(35) 我 没 去 过 北京。 (“过”の否定)

Wǒ méi qùguo Běijīng.

(私は北京に行ったことがない。)

(36) 我 没 去 北京。 (“了”の否定)

Wǒ méi qù Běijīng.

(私は北京に行かなかった。 / (まだ)北京に行っていない。)

【17】 やっとバスは 走り出した / 走り始めた。

(37) 公 共 汽车 终 于 开 了。

Gōnggòng qìchē zhōngyú kāi le.

(やっとバスは 走り出した。 / 走り始めた。)

(37)「バスは走り出した」のような例では、バスが停車していた状態から、“开”(車が走る)という状況に変化したと考え、文末に“了”をつけるだけで十分である。

ただ、中国語には「～し始める」とか「～しだす」のような、開始相を表す言語形式は2種類存在する。

まず1つ目は、動詞“开始”(始める)を使った表現である。“开始”が他の動詞を目的語として伴い、その動作行為をし始めることを表す。¹¹

(38) 他 刚 开始 学习 写作。

Tā gāng kāishǐ xuéxí xiězuò.

(彼は文章を書く勉強をし始めたばかりだ。)

もう1つは、動詞に方向補語“起来”が後続した場合で、動作が始まり、継続していくことを表す。

(39) 飞 轮 旋 转 起 来 了。

Fēilún xuánzhuǎnqǐlai le.

(歯車が回転しだした。)

¹¹ (38)(39)の例は吕叔湘主编 1999 より。

【18】きのう彼女はずっと寝ていた。

(40) 她 昨天 整天 都在 睡觉。

Tā zuótiān zhěngtiān dōu zài shuǐjiào.

(きのう彼女はずっと寝ていた.)

【18】は長時間の継続する事態を述べる表現である。中国語では、まず「ずっと」に相当する、長時間を表す語“整天”（一日中、終日、朝から晩まで）で、動作が長時間継続したことを表す。「寝ていた」のテイル形の箇所は、この場合動作の進行を表す時間副詞“在”で表すことが可能である。

【19】私はそれをちょっと食べてみた。

(41) 我 尝了 尝 那个 东西。

Wǒ chángle cháng nège dōngxi.

(私はそれをちょっと食べてみた.)

(42) 我 尝了 一下 那个 东西。

Wǒ chángle yíxià nège dōngxi.

(私はそれをちょっと食べてみた.)

「ちょっと～してみる」という、試みる意味を表す場合、中国語では動詞の重ね型という文法項目を用いるか、もしくは“一下”（ちょっと）という語彙を用いて表現する。

「ちょっと～してみる」という未然の事態についての動詞の重ね型は、動詞をそのままの形で2度重ねて用いる。この場合2つ目の動詞は軽声で発音される。¹²

(43) 你 看看, 这样 写 对 不对?

Nǐ kànkàn, zhèyàng xiě duì bu duì?

(ほら、ちょっと見てみてください、このように書いて合っていますか.)

また、試みる意味を更に前面に打ち出すため、動詞の重ね型を用いた後で更に文末に“看”が置かれることもある。

¹² (43)(44)は、刘等 2001:162-163 より。

(44) 这个 电视机 我 修不好, 你 来 修修 看?

Zhèige diànshìjī wǒ xiūbuhǎo, nǐ lái xiūxiu kàn?

(このテレビは私は直せない。あなたちょっと直してみますか。)

「ちょっと～してみた」のように、実現済みの事態について動詞の重ね型が用いられる際には、重ねた2つの動詞の間にアスペクト助詞“了”を置く。(41)の“尝了尝”がその例である。

【20】 あの人(ら)はそれ(ら)をみんなに分け与えた。

(45) 他 把 那些 东西 分给了 大家。

Tā bǎ nàxiē dōngxi fēngěile dàjiā.

(あの人(ら)はそれ(ら)をみんなに分け与えた。)

(46) 他 把 那些 东西 分给 大家 了。

Tā bǎ nàxiē dōngxi fēngěi dàjiā le.

(あの人(ら)はそれ(ら)をみんなに分け与えた。)

【20】の中国語訳としては、(45)や(46)のようなものが相当する。中国語では多くの(間接)目的語に対する多回的なアスペクト表現というものは存在しない。(45)では、アスペクト助詞“了₁”が動詞句“分给”(～に分け与える)の直後に後続し、(46)では語気助詞“了₂”が文末に用いられている。それぞれ異なる角度からの表現となっているが、これらの文の表す事態は、客観的な事実としては同じことを指している。“了₁”を用いた(45)と、“了₂”を用いた(46)は、前後の文脈を加えたより大きなディスコース全体の枠の中で、その使い分けの要因を見定める必要がある。¹³

【21】 さあ、(私たちは) 行くよ!

(47) 我们 走 (吧) !

Wǒmen zǒu (ba)!

(さあ、(私たちは) 行くよ!)

【21】は、話し手が聞き手に動作をするように呼びかけている、広い意味での命令

¹³ 詳しくは三宅2010を参照。

文である。中国語訳では、そのような呼びかけ、勧誘の語気を表すために、語気助詞“吧”という具体的な語彙が用いられることもある。ただし、中国語には命令文を形成するための専用の文法形式は存在しないので、語気助詞“吧”はなくても、場面の支えさえあれば、そのような意味は十分表せる。

【22】 地球は太陽の周りを回っている。

(48) 地球 绕着 太阳 转。

Dìqiú rào zhe tàiyáng zhuàn.

(地球は太陽の周りを回っている.)

(48)のような、いわゆる「恒常的な真理」の表現も、中国語ではそれに対応する具体的なアスペクトのマーキングはなく、動詞をそのままの形で用いた動詞述語文が対応することになる。

【23】 あの木は今にも倒れそうだ。

(49) 那 棵树 看起来 快要 倒了。

Nèi kē shù kànqilai kuàiyào dǎo le.

(あの木は今にも倒れそうだ.)

【5】の箇所ですべてのように、「もうすぐ～する」という将然相は、中国語では“快要～了”，“快～了”等のパターンを用いて表される。「近い未来の表現」として初級学校文法においてもこのようなパターンを用いて教授されるのが通常である。「～そうだ」の部分中国語では推量を表す“看起来”（見たところ～そうだ）という表現で表す。

【24】 (私は) あやうく転ぶところだった。

(50) 我 差点儿 摔倒。

Wǒ chàdiǎnr shuāidǎo.

(私はあやうく転ぶところだった.)

(51) 我 差点儿 没 摔倒。

Wǒ chàdiǎnr méi shuāidǎo.

(私はあやうく転ぶところだった.)

「あやうく～するところだった」「もう少しで～するところだった」という未実現の事態は、副詞“差点儿”を用いて表現する。¹⁴ 副詞“差点儿”は、その後に置かれる事態が話者にとって望ましい事態か、望ましくない事態かによって、統語的な振る舞いが異なる。

望ましくない事態を危うく免れたことを表し、「幸いなことに」というニュアンスを含む場合には、後に続く動詞が肯定形でも否定形でも同じ意味になる。(50)が肯定形(“摔倒”)の例、(51)が否定形(“没摔倒”)の例である。¹⁵

一方、望ましい事態が後に続く場合は次の2つのケースに分かれる。まず、実現しそうになかった望ましい事態が実現したことを表すことがある。「幸いなことに」というニュアンスが含まれ、後には否定形が続く。¹⁶

(52) 差点儿 没 见着。

Chàdiǎnr méi jiànzháo.

(もう少しで彼に会えないところだった.)

次に、望ましい事態が実現しそうだったものの結局実現しなかったことを表すことがある。「惜しいことに」というニュアンスを含み、後には肯定形が続く。

(53) 差点儿 就 买到 了。

Chàdiǎnr jiù mǎidào le.

(惜しいことに買えなかった.)

【25】 明日お客が来るので、パンを買っておく。

(54) 明天 要 来 客人, 我去 买点 面包。

Míngtiān yào lái kèren, wǒ qù mǎi diǎnr miànbāo.

(明日お客が来るので、パンを買っておく.)

「～ておく」が「先に、事前に、あらかじめ」という意味を表すために付されてい

¹⁴ “差点儿”については、朱德熙 1980 を参照。

¹⁵ ただし、インフォーマントの語感によると、(50)の肯定形の方が使用頻度は高いようである。

¹⁶ (52)(53)は吕叔湘主编 1999:112 より。

るともし考えれば、中国語でも例えば“先”のような副詞を使えば、そのような意味を表すことはできる。ただ、(54)のような例の場合、前半で“明天要来客人”（明日お客が来る）と述べて、後半で（そのために）“去买点儿面包”（パンを買いに行く）と続くので、「客を迎えるために事前に」の意図は、わざわざ“先”のような副詞を用いなくても、複文の節同士の結びつきでわかる。むしろこのように接続するための表現を使わない方が、中国語としては自然である。

【26】（私は）～に（街とか市場とか）行った時、この袋を買った。

(55) 我去王府井的时候买了这个袋子。

Wǒ qù Wángfǔjǐng de shíhòu mǎile zhège dàizi.

(私は王府井に行った時、この袋を買った。)

【27】（私は）～に（街とか市場とか）行く時／行く前に、この袋を買った。

(56) 我去王府井之前买了这个袋子。

Wǒ qù Wángfǔjǐng zhīqián mǎile zhège dàizi.

(私は王府井に行く時／行く前に、この袋を買った。)

(55)と(56)は、後半の“买了这个袋子”（この袋を買った）の部分は共通である。買うという行為が実現済みであることが、Aspect助詞“了”によって表されている。異なるのは前半部分で、中国語では「～する／した時」は“～的时候”，「～する前に」は“～之前”で表す。このように時間の順序の相対関係を表す場合も、具体的な語彙を用いる。

【28】（私は）彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。

(57) 我知道他在市场买了这个袋子。

Wǒ zhīdao tā zài shìchǎng mǎile zhège dàizi.

(私は彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた。)

後半の“买了这个袋子”（この袋を買った）においては、Aspect助詞“了”によって実現済みであることが明示されているが、「知っていた」に該当する“知道”（知っている）については何らマークは付されていない。時制を表す言語形式のない中国語で

は、(57)のように“知道”をそのまま用いることによって、(彼が市場でこの袋を買ったのを)「(現在)知っている」という意味にもなるし、「(過去のある時点で)知っていた」という意味にもなるわけである。

以上、日本語の様々な表現とそれらの中国語訳との対照を通じて、中国語のアスペクトの様々な側面を概観した。中国語のアスペクトについては、龚千炎 1995、戴耀晶 1997 などの概説書の他、竟成主编 2004、日中対照言語学会編 2002、于康・張勤編 2000、2001a、2001b などの論文集も先行研究の把握には便利である。日本語との対照という見地からは、井上等 2002、木村 1982 などが優れた議論を行っている。

参考文献

(中国語文献、著者ピンイン順)

- 戴耀晶 1997 『現代汉语时体系统研究』, 浙江教育出版社。
丁崇明 2009 『現代汉语语法教程』, 北京大学出版社。
郭志良 1991 「時間副詞“正”“正在”和“在”的分布情況」, 『世界漢語教學』第 3 期。
——1992 「時間副詞“正”“正在”和“在”的分布情況(續)」, 『世界漢語教學』第 2 期。
竟成主编 2004 『漢語時體系統國際研討會論文集』, 百家出版社。
李曉琪 2005 『現代漢語虛詞講義』, 北京大學出版社。
龔千炎 1995 『漢語的時相時制時態』, 商務印書館。
劉勛寧 1988 「現代漢語詞尾“了”的語法意義」, 『中國語文』第 5 期。(劉勛寧 1998 『現代漢語研究』, 北京語言文化大學出版社。)
劉一之 2001 『北京話中的“着(zhe)”字新探』, 北京大學出版社。
劉月華等 2001 『實用現代漢語語法(增訂本)』, 商務印書館。
盧福波編著 2000 『對外漢語常用詞語對比例釋』, 北京語言文化大學出版社。
呂叔湘主编 1999 『現代漢語八百詞(增訂本)』, 商務印書館。
三宅登之 2007 「表示動態的“V着”的實際使用情況考察」, 張黎等主编 2007 『日本現代漢語語法研究論文選』, 北京語言大學出版社。
杉村博文 2006 「句尾助詞“了”的語義擴張及其使用條件」, 『漢語教學學刊(第 2 輯)』。
朱德熙 1980 「漢語句法中的歧義現象」, 『中國語文』第 2 期。(朱德熙 1980 『現代漢語語法研究』, 商務印書館。)

(日本語文献、著者アルファベット順)

- 井上優・生越直樹・木村英樹 2002 「テンス・アスペクトの比較対照 日本語・朝鮮語・

- 中国語」, 生越直樹編 2002 『シリーズ言語科学 4 対照言語学』 東京大学出版社.
- 木村英樹 1982 「中国語 (テンス・アスペクト)」, 寺村秀夫他編 『講座日本語学 11 外国語との対照』 明治書院.
- 1997 「動詞接尾辞“了”の意味と表現機能」, 『中国語学論文集』 東方書店.
- 2006 「「持続」・「完了」の視点を超えて—北京官話における「実存相」の提案—」, 『日本語文法』 6 巻 2 号.
- 三宅登之 1999a 「いわゆる“过 1”の統語論的性質について」, 『東京外国語大学論集』 第 58 号.
- 1999b 「周縁的“过 2”について」, 『中国語』 11 月号.
- 2005 「アスペクト助詞“着”の実際の使用状況と文法教材への応用」, 『インターネット技術を活用したマルチリンガル言語運用教育システムと教育手法の研究』 (平成 14 年度～平成 16 年度科学研究費補助金基盤研究(B)(2)研究成果報告書).
- 2010 「“了₁”と“了₂”の相違点とその認知的解釈」, 『中国語教育』 第 8 号.
- 日中対照言語学会編 2002 『日本語と中国語のアスペクト』, 白帝社.
- 于康・張勤編 2000 『中国語言語学情報 No.2 テンスとアスペクト』, 好文出版.
- 編 2001a 『中国語言語学情報 No.3 テンスとアスペクト』, 好文出版.
- 編 2001b 『中国語言語学情報 No.4 テンスとアスペクト』, 好文出版.